

2019年4月25日

## 【格付維持】 新生銀行グループ各社

格付投資情報センター(R&amp;I)は上記の格付を公表しました。

&lt;格付見直し結果&gt; 格付対象は後記をご参照ください

発行者(証券コード)	発行体格付	格付の方向性	短期債務/CP
新生銀行(8303)	A-(維持)	安定的	a-1(維持)
アプラスフィナンシャル(8589)	A-(維持)	安定的	—
アプラス	A-(維持)	安定的	a-1(維持)
新生フィナンシャル	A-(維持)	安定的	—
昭和リース	A-(維持)	安定的	—

## 【格付理由】

## ○新生銀行

ニッチで専門性の高い事業領域に強みを持つほか、買収でコンシューマーファイナンス事業を拡大してきた。営業基盤の規模は小さいが、経営改革の進展などで安定性が徐々に高まっている。グループ融合や生産性向上が進展しているほか、ストラクチャードファイナンスやコンシューマーファイナンスは比較的順調に実績を積み上げている。収支構造改革でリテールバンキングも収益性の改善が見込めそうだ。ビジネス面でのグループ融合による粗利益の増強や、異業種連携による新たな顧客基盤の獲得などが今後の成長のカギを握るだろう。

一般の商業銀行と比べて利益は事業環境の変化に影響を受けやすい。リスク選好度はやや高いが、リスクアペタイトフレームワークの整備が進んでいるほか、健全なリスク文化が浸透している。抱えるリスクは信用リスクが中心で、市場リスクは限定的だ。収益性は比較的高いが、経費効率に改善の余地がある。

リスク耐久力はAゾーンに見合っている。リスク量は比較的大きいが、内部留保の蓄積によって資本の充実が進んでいることが寄与している。将来的な公的資金の返済に際し、増配や自社株買いなどの株主還元を実施しても、Aゾーンのリスク耐久力を保っていけよう。

資産の質は比較的健全。慎重な与信業務運営が定着しており、信用コストが大きく上振れする可能性は低いとみている。過払い金返還リスクに対してもグループ全体でみれば十分な引当金を備えている。

流動性も現状問題ない。一般の商業銀行と比べると預金基盤は弱いが、インターネットチャネルなどを通じて個人預金の吸収力を一定程度備えている。日本のリテール市場で外貨預金の獲得力が強い点は評価できよう。ストラクチャードファイナンスなど流動性の低い外貨建て資産の拡大が見込まれるため、外貨の調達構造や流動性リスク管理態勢の強化といった取り組みに注目している。

米系投資ファンドが株式の約23%、国も公的資金を投入した経緯から約19%を保有する。公的資金の完済及び投資ファンドのEXIT(出口)が懸案になっている。

## ○アプラスフィナンシャル、アプラス

アプラスフィナンシャルは新生銀行の連結子会社で、信販・カード事業を担うアプラスや消費者ローン事業を営むアプラスパーソナルローンなどを統括する中間持株会社。持株会社単体の収支・財務構造に問題は無い。アプラスは信販大手の一角を占める。新生銀行グループは個人向けビジネスを戦略的事業と位置付けて強化・拡充しており、割賦、カード、融資、集金代行など多様な機能を持つアプラスは重要な存在にある。個人ビジネスを1つのユニットにまとめて一体運営する方針を掲げており、グループの一体性はさらに強まる方向にある。格付は新生銀行と同じにしている。

営業収益は増加基調にある。ショッピングクレジット、カード、融資、決済それぞれの事業収益が着実に伸びている。不動産関連ローン、集金代行や家賃保証などの分野も収益を底上げしている。利息返

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html>をご覧ください。

還費用の負担はまだ重いものの請求は減ってきている。収益力はBBBゾーンと評価している。資産の質は維持されている。優先株式の消却により資本が増えない状況が続くことが見込まれるものの、リスク耐久力は格付に見合う水準を確保している。新生銀行からの借入金を軸に資金調達に特段の懸念はない。

#### ○新生フィナンシャル

新生銀行の完全子会社で、グループにおける消費者向け無担保ローン事業の中心的役割を担う。「新生銀行カードローン レイク」として新生銀行が融資して新生フィナンシャルが保証するスキームから、2018年4月以降の新規顧客より新たなブランド「레이크 ALSA」の下で新生フィナンシャルが融資するスキームに戻している。グループの一体性は強く、格付は新生銀行と同じにしている。

消費者金融専門の上位2社とは差があるものの、消費者ローンの分野で「레이크」ブランドは知名度が高い。新生銀行と合算したカードローン残高を着実に積み上げてきた。ブランド変更に伴う一時的な影響で残高が減少に転じているが、申し込み件数や成約率は徐々に改善しており、再び増加基調に戻るだろう。単体で見ると、新規顧客への融資再開に伴う広告宣伝費の負担により利益は圧迫されている。利息返還損失引当金の水準は同業他社と比べて高いうえ、返還請求の減少により引当金に余裕も生じている。資本が厚いこともあって、リスク耐久力は格付に十分見合っている。

#### ○昭和リース

新生銀行の完全子会社で、グループにおけるリースやアセットファイナンス事業を担う。新生銀行グループにとって中堅・中小企業の顧客基盤を持つ昭和リースは重要な存在にある。法人ビジネスを1つのユニットにまとめて一体運営する方針を掲げており、グループの一体性はさらに強まる方向にある。格付は新生銀行と同じにしている。

建機やIT関連を中心に親密なサプライヤーを多く抱えている。競争が厳しく取扱高全体は弱含みだが、アプラスとのベンダーリースやオートリースが順調に伸びている。生命保険の販売や中古機械の売買、レバレッジドリースの組成など手数料収入も堅調だ。基幹システムの更新による費用増が響いたことで基礎的な利益によるコスト吸収力はやや低下したが、なおBBBゾーンの水準にある。与信ポートフォリオは小口分散し、資産の質は比較的良好。リスク耐久力は格付に照らして十分な水準にある。

#### 【格付対象】

発行者：新生銀行（証券コード：8303）

名称	格付	格付の方向性
発行体格付	A-（維持）	安定的

名称	発行予定額 (億円)	発行予定期間	予備格付
発行登録（社債）	2,000	2018年03月23日～2020年03月22日	A-（維持）

名称	発行総額 (億円)	発行日	償還日	格付
第2回無担保社債	50	2014年12月11日	2019年12月11日	A-（維持）
第3回無担保社債	50	2015年10月27日	2020年10月27日	A-（維持）
第4回無担保社債	100	2016年10月27日	2021年10月27日	A-（維持）
第5回無担保社債	100	2018年07月13日	2023年07月13日	A-（維持）
第6回無担保社債	100	2018年12月13日	2023年12月13日	A-（維持）

名称	格付
短期債務	a-1（維持）

■お問合せ先：マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp  
 ■報道関係のお問合せ先：経営企画室（広報担当） TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

名称	発行限度額 (百万米ドル)	担保・保証 保証会社等	格付
ユーロMTNプログラム	5,000	無担保	A- (維持)

発行者：アプラスフィナンシャル (証券コード:8589)

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行予定額 (億円)	発行予定期間		予備格付
発行登録 (社債)	1,000	2018年09月04日～2020年09月03日		A- (維持)
名称	発行総額 (億円)	発行日	償還日	格付
第3回無担保社債	100	2015年06月19日	2020年06月19日	A- (維持)
第4回無担保社債	100	2016年06月17日	2019年06月17日	A- (維持)
第5回無担保社債	100	2018年10月15日	2023年10月13日	A- (維持)

発行者：アプラス

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行限度額 (億円)	担保・保証 保証会社等	格付	
コマーシャルペーパー	2,700	無担保	a-1 (維持)	

発行者：新生フィナンシャル

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		

発行者：昭和リース

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行予定額 (億円)	発行予定期間		予備格付
発行登録 (社債)	800	2018年08月09日～2020年08月08日		A- (維持)
名称	発行総額 (億円)	発行日	償還日	格付
第2回無担保社債	100	2016年09月15日	2019年09月13日	A- (維持)
第3回無担保社債	100	2018年07月31日	2023年07月31日	A- (維持)

☆予備格付は、個別債務の最終的な条件が決定されていない段階で予備的な信用格付が必要となる場合に、付与する評価です。個別債務の最終的な契約内容等によっては、予備格付とは異なる信用格付が付与されることがあります。

☆MTNプログラムに対する信用格付はプログラムを対象としており、プログラムのもとで発行する個々の債券に対する信用格付ではありません。個々の債券の信用格付は通常、同プログラムの信用格付と同一ですが、クレジットリンク債、インデックスリンク債など個々の債券の契約内容によっては、同一とならない、あるいは格付しないことがあります。R&Iは依頼に応じて、個々の債券にも信用格付を付与することがあります。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp  
 ■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

## 信用格付に関わる事項

信用格付業者 登録番号	株式会社格付投資情報センター 金融庁長官（格付）第6号 直近一年以内に講じられた監督上の措置は、ありません。
主任格付アナリスト	新生銀行：阿部 広夢 アプラスフィナンシャル、アプラス、新生フィナンシャル ：大石 竜志 昭和リース：大内 祥子
信用格付の付与について 代表して責任を有する者	住田 直伸

信用格付を付与した日	2019年4月22日
主要な格付方法	事業法人等の信用格付の基本的な考え方 [2018. 05. 31] 金融機関等に共通する格付の考え方 [2017. 03. 07] 預金取扱金融機関 [2019. 02. 21] 消費者金融 [2017. 04. 25] クレジットカード・信販 [2016. 04. 26] リース [2017. 03. 24] 金融グループの格付の考え方 [2018. 08. 09]
上記格付方法は、格付を行うにあたり考慮した他の格付方法とともに以下のウェブサイトに掲載 しています。 <a href="https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_method.html">https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_method.html</a>	
評価の前提は、以下のウェブサイトの格付付与方針に掲載しています。 <a href="https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_grant.html">https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_grant.html</a>	
格付符号とその定義は、以下のウェブサイトに掲載しています。 <a href="https://www.r-i.co.jp/rating/about/definition.html">https://www.r-i.co.jp/rating/about/definition.html</a>	
格付関係者	新生銀行、アプラスフィナンシャル、アプラス、 新生フィナンシャル、昭和リース
注 格付関係者は、金融商品取引業等に関する内閣府令第三百七条に基づいて、R&Iが判断したものです。	
利用した主要な情報 品質確保のための措置 情報提供者	決算書類、開示情報 公認会計士の監査済みである、またはそれに準じた信頼性が確保され ている決算書類であること。一般に開示された、またはそれに準じた 信頼性が確保されている情報であること。 格付関係者
信用格付の前提、意義及び限界 R&Iの信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約 定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見です。R&Iは信用格付によって、個々の債 務等の流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて、何 ら意見を表明するものではありません。信用格付は、いかなる意味においても、現在・過去・将来 の事実の表明ではありません。また、R&Iは、明示・黙示を問わず、提供する信用格付、又はその 他の意見についての正確性、適時性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項 について、いかなる保証もしていません。 R&Iは、信用格付を行うに際して用いた情報に対し、品質確保の措置を講じていますが、これら の情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、必要と判断した場合 には、信用格付を変更することがあります。また、資料・情報の不足や、その他の状況により、信 用格付を保留したり、取り下げたりすることがあります。 利息・配当の繰り延べ、元本の返済猶予、債務免除等の条項がある債務等の格付は、その蓋然性 が高まったとR&Iが判断した場合、発行体格付又は保険金支払能力とのノッチ差を拡大することが あります。	

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。